
気まぐれ猫の散歩

月猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

気まぐれ猫の散歩

【Nコード】

N3341Z

【作者名】

月猫

【あらすじ】

人に疎まれ、苦しい思いをしてきた、元猫・現在妖怪の彪ヒョウ。妖怪や、霊が見えてしまい、気味悪がられてきた両親のいない少女、ほたる。

そんな2人が出会って、いろいろと学んでいきます。

記憶（前書き）

初めまして。月猫つきねこです。

。思いつきでやっているのですが、どのくらい続くかビミョーですが・・・

宜しく願います。

記憶

辛い事、悲しい事、いろいろあったさ。

人は、嫌いだ。ずっと一緒とか言っつて、優しいフリしてすぐ裏切る。もう期待して、裏切られるのはごめんさ。

なのになぜ、こんなことになったのかな・・・？

誰か教えてよ。

私の名は、彪^{ひょう}。オス。1番最初に、飼ってくれた人がつけてくれた。1番はじめに飼ったくれたのは、年老いた、おばあさんだった。わたしは、まだ子猫だった。この人は優しくしてくれた。まだ目も開かないうちに捨てられた私を。幸せだったけど、そう長く続かなかった。おばあさんが死んでしまった。引き取り手がないわたしは捨て猫となった。

そうしているうちに、今度は男の子に拾われた。大切にしてくれたけど、大きくなるにつれて、相手にしてくれなくなった。そして、疎まれるようになった。この時、わたしは4歳。男の子の家を飛び出し、再び、捨て猫となった。

次は、大人の男に拾われた。男は一人暮らしをしていた。アパート暮らし。狭くて、汚い部屋だけど、仲良く暮らしていた。けれど世の中は、不景気になっていた。男は、会社をリストラされた。1日中家にいて、段々と私に八つ当たりするようになった。酒癖も悪くなくなっていった。ある日、いつものように八つ当たりされた。抵抗したけど、意味は無く・・・。そして私は死んでしまった。私が7歳の頃。

死んでからも、死にきれず、ついに・・・。妖怪となってしまうた。妖怪となった私はもう、猫ではない。真っ白で、トラック1台分はある。耳は後ろに倒れ気味で、尾は長く、フサフサ。大犬の姿に似

ていた。それでいて、猫の姿にも戻れる。白くて、丸い姿に。尾は、丸くて短いけれど。何やら妖力ちからも強いようだし……。これなら、もう、人の世話になんかならなくて済む。私は自由になった。

ほたるの苦しみ(前書き)

更新遅れて、すみませんでした。

これからもこんなことがあったりするかもしれないですが、よろしく
お願いします。

ほたるの苦しみ

5歳の頃、私は両親を亡くした。

五ヶ瀬ほたる。中学2年生。

わたしには、秘密がある。それは、この世の者でないもの。信じてもらえないだろうけど、妖怪や、霊が見える。

両親を亡くしてからは、親戚を転々としてきた。しかし、わたしは妖や霊を見る、不気味な子。周りの人から見たら、嘘つき、気味悪い、変な子、というふうでしかない。そのため、だれもきちんと引き取りたがらなかった。

今住んでいる家の人は、母方の遠縁。今までにないくらい、優しい人たちだった。こんなにもいい家はない。ずっとここにいたい。この人たちに、不気味な思いはさせたくない。そう思って、妖怪や霊を見る事は、秘密にしている。

けれど、家にいたら、いつかその事がバレそうで……。学校が終わると、近くの森の中で過ごす事が多くなった。

ほたるの苦しみ(後書き)

感想待ってます

出会った

今日は、雨が降っている。普通だったら、森になんか行かない。ほたるは、森の入口で立ち止った。

普通だったら・・・。

そう思っていたのに、森の中に入って行ってしまった。来てしまった・・・。

とにかくため息をつくしかない。まあ、雨も少ししか降っていないし、少しくらい良いか。

その時だ。

ドスン!!!!!!

後ろで音がした。ドキドキしながら、恐る恐る振り向く。そして悲鳴を上げそうになった。思わず腰が抜けた。後ろにいたのは・・・。大きな獣だった。白くてとにかく大きい。目は、銀色。耳が後ろに倒れ気味。尾がとにかく長い。

「む。なんだ、人の子か」

低い声。多分これは・・・。

「妖怪なの？」

「当り前だ」

そりゃ、そうだろう。これが、普通の動物なわけがない。

「お前には、私が見えるのか？」

「まあ・・・」

話も出来るし、見えている。

「雨が降っているのに、何をしている」

そこまで来て、やっと落ち着いた。はたると立ち上がる。

「関係ないでしょ」

「ふん。ふてぶてしい奴だ」

そんなこと、妖怪に言われたくない。

「あんたこそ、突然何よ」

「少し散歩してただけだ」
そういえば、コイツには話を通じる。ほたるは、もう少し話してみ
ることにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3341z/>

気まぐれ猫の散歩

2011年12月14日19時58分発行